

令和3年度国立淡路青少年交流の家教育事業
全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 淡路
実施報告

- 1 趣 旨：高校生が、地域づくりや地域の課題解決等に取り組む大人との対話や体験活動を通して、探究する姿勢や課題に向き合う力を身に付けるとともに、新たな価値を創造しようとする人材の育成を図る。
- 2 日 時：令和3年4月21日（水）、22日（木）、23日（金）、26日（月）
- 3 場 所：国立淡路青少年交流の家、兵庫県立洲本実業高等学校、南あわじ市内フィールドワーク先
- 4 対 象：兵庫県立洲本実業高等学校 地域商業科 2年生
- 5 参加者：40名
- 6 講 師：大正大学地域構想研究所プロジェクトプロデューサー 山中昌幸氏
株式会社 フィールドコム 映像制作事業部 今西沙耶氏・温泉銀次氏
株式会社 うずのくに南あわじ 取締役 宮地勇次氏
株式会社 うずのくに南あわじ デザイナー 川上小百合氏
株式会社 淡路島牧場 牧場部牧場管理 横山佳範氏
福良港津波防災ステーション 学習リーダー 谷口金司氏

7 プログラムの内容

4月21日（水）10：00～11：50 講話「地域づくりの実践」

大正大学地域構想研究所プロジェクトプロデューサーである山中昌幸氏から「未来をつくる。～ワクワクする未来を創る考え方とは？～」をテーマに講義・ワークショップをしていただいた。その中で山中氏から、問題点に注目し目標を設定して改善していく「ギャップアプローチ」の他に、強みに着目し新たな可能性を開発していく「ポジティブアプローチ」について説明があった。探究を行う際には「ギャップアプローチ」を用いることが多いと思うが、強みや可能性に着目する、文字通り「ポジティブ」に取り組む方法を知った高校生は、これからの探究活動への期待度を高めるとともに、前向きに本事業に参加する姿勢が生まれた。



4月21日(水) 12:30~16:30 フィールドワーク①「地域の魅力を発見」

午後からはグループ毎に分かれて、各フィールドワーク先(株式会社フィールドコム、株式会社うすのくに南あわじ、株式会社淡路島牧場、福良港津波防災ステーション)を訪問した。どのフィールドワーク先も立地的には身近なものであるにもかかわらず、初めて訪れたという生徒が多かった。参加者は各フィールドワーク先で実際に行っている活動を体験し、そこで働く人との対話を通して、インターネットの情報からは学べない魅力や課題、仕事にける情熱等を発見できた。



4月22日(木) 8:40~12:00 講義・演習「地域理解」

まず、前日に訪れたフィールドワーク先の魅力と課題を、付箋に書いて模造紙に整理してまとめた。想像以上に多岐にわたる意見が出たことから、参加者にフィールドワーク先で五感を通して学び、感じ取ったことが数多くあったことが窺えた。次に、参加者一人一人が気になる魅力と課題を選び、スコアキングの手法を活用し、グループ内でお互いに気になる点を質問しあうことで魅力と課題について深く考えた。質問をしていく中で、「私はこうだと思う」「ここがよく分からないから、明日フィールドワーク先で聞いてみよう」等の話し合いがもたれ、積極的に考えを深めていく姿が印象的であった。最後に、グループ内で最も気になる魅力と課題をそれぞれ1つずつ選んだ。



4月22日(木) 12:00~15:05 講義・演習「地域課題の基礎」(途中休憩を含む)

グループで選んだ魅力や課題をもとに、実現できそうな具体性のある提案や、実現するための方法について考え、KP法を活用して魅力アップ・課題解決のアイデア(以下アイデアと略)のプレゼンテーション資料を作成した。それをクラス全体で発表し共有したのだが、「そのアイデアで大人は納得する?」「そのアイデアは具体的?」との指摘を受け、発表内容を練り直した。この時点で参加者は、具体的なアイデアとはどのようなものなのかイメージができておらず、アイデアの練り直しに悪戦苦闘していた。



4月23日（金）9：00～12：00 フィールドワーク②「地域課題の探究」

前日午後のワークで考えたアイデアを各フィールドワーク先で発表した。参加者は、親や学校の先生以外の大人に自分のアイデアを発表する機会は少なく、緊張していたが「自分たちが考えたアイデア」を堂々と発表していた。その後の質疑応答では、資金に関する事、人材に関する事等、前日のワークでは気づけなかった指摘を受け、参加者のアイデアを深めていく視点が増えた。また、改めて施設を見学することで、「ここを改善すればもっと魅力的な施設になる」「これは私たちにも行動できそう」など新たなアイデアも浮かび、参加者とフィールドワーク先の講師との間で、活発な議論が行われていた。



4月23日（金）14：00～17：00 講義・演習③「地域課題の探究」

午前中に発表したアイデアに、フィールドワーク先に行って気づいた視点や、確かな根拠、具体的な自分の活動内容を加えることで、アイデアをより現実的なものにしていった。ここまでの学びを生かし、参加者が主体的にグループ内で考えをまとめたり、より具体的なアイデアを話し合っ進めようしたりしている姿が印象的であった。また「何かイベントをしようと思うけど、そもそもイベントって何だろうか」等の疑問点をはっきりさせて取り組もうとする姿勢がみられるようになり、物事を深く考えることができるようになっていく様子も見受けられた。



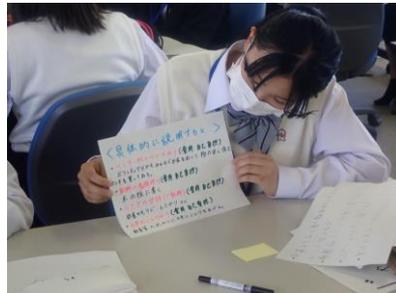
4月26日（月）8：40～10：30 発表①

23日午後のワークで考えたアイデアを発表し、全体で共有した。フィールドワーク先で聞いた話、根拠資料の提示をもとに、全グループから具体的なアイデアを発表することができた。「1回目の発表とは全く違う。こっちの方がカッコいい！」という参加者の声が聞けたことから、参加者自身も自分の成長を感じているようだった。また、聞き手の参加者、先生や交流の家職員から、良かった点、改善点等、発表に対する意見をたくさんもらうことで、多面的に物事を考えるよい機会となった。



4月26日(月) 10:40~14:05 講義・演習④「行動計画の基礎」、発表②(途中休憩を含む)

ここまで学習したことを生かし、自分が本当に行動してみたいことについて考えた。フィールドワーク先でつけた課題から、日常生活で挑戦してみたいものまで様々な活動プランが見られた。また参加者は、自分自身で、他の人の意見を取り入れながら、自身の行動計画を深めていけるようになっており、ここまでの学びを自分の中に落とし込んでいる様子が窺えた。最後に自身の行動計画をグループ内で発表することで、今後の実践活動に対する期待感を持たないように感じた。



8 参加者の声

- こんなに頑張って一つのことについて考えたことはなかったのでとても満足出来ました。
- とても楽しく、普段ではできなかつたいい経験が出来ました。何度も同じことをするのはくどく感じることもありましたが、きっとこれが社会に出てから必要なのだなと改めてわかりました。
- 「大人になる」ということをしっかりと学べたし、実際に大人に会って学べたことが沢山ありました。グループ活動で自分の意見をみんなが採用してくれたのがとても嬉しかったです。
- 私は自分の意見を人に伝えるのが苦手だったけど、今回のオリエンテーションで、自分で考えて自分の意見を言えるようになって、成長出来たと思いました。

9 所感

当初昨年7月に実施予定だったが、2度の緊急事態宣言を受け、年度を跨いでの実施となった。

「地域商業科」の生徒を対象としたこともあり、事業が始まる前から期待度は高かったように思う。

参加者は物事を深く考える、仲間と協働して作業を進めることに対して相当時間を費やし思考を巡らせたため、「いつもの授業より頭を使うので疲れた」と話す参加者が多かった。しかしその疲れている中でも「会社の企画会議みたいで楽しい」、「自分で考えるのって楽しい」等の声も聞こえてきたことから、探究していく面白さを感じ取ってくれたと考える。

大量の情報を日々目にする高校生にとって、物事を深く考える機会が減ってきている中、学校内で探究に関する授業が始まるということは、大人になる一歩手前の高校生にとって、自ら考え行動する場面で生かされることが大いに期待できる。今後も学校と連携を深めていき、よりよい運営のあり方や支援方法を探るとともに、社会で活躍できる人材育成をともに進めていくことができるよう努めたい。